

令和5年度 旭保育園・旭学園英語教育全体計画

旭保育園 保育目標	旭学園 学校教育目標
自分らしさを発揮して、いきいきと生き、未来をよりよく生きる旭っ子	「夢をもち 未来をひらく 旭っ子」の育成



旭学園のミッション	地域と共に「グローバル社会・Society5.0時代をたくましく生きる力」と「ふるさと旭の発展を主体的に考え行動する力」を育む
-----------	---

旭学園英語教育の意義	・異なる文化を持つ他者とながらコミュニケーションスキル（自己表現、他者理解、英語4技能）の習得及び意欲・自信をはぐむ ・地域資源を活かした世界に開かれた旭の可能性を考え、英語でふるさと旭や自分のことを表現する
------------	---

旭学園英語教育の特色	ネイティブスピーカーに触れる機会や積極的に英語でコミュニケーションを図る学習を通して、児童・生徒同士が思いや考えを交わし合う経験を重ね、ふるさと旭への愛着を持つとともに、英語を使って旭の魅力や発展、自分のことを表現する意欲と能力を高める	英語教育でめざす児童生徒像の姿			
		小学校課程修了時	【知識・技能】自分自身や相手のこと、ふるさと旭や身の回りのことなどを話題にして、基本的な英語を使って説明したり紹介したりする基礎的な技能を身に付けている 【思考・判断・表現】目的や場面、状況などに応じて、ふるさと旭のよさや自分の興味があることなどについて、基本的な英語表現を使って聞いたり話したりしている 【学びに向かう力・人間性の涵養】英語の背景にある文化にいて理解し、楽しみ積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする	中学校課程修了時	【知識・技能の習得】英語を共通語として言語の働きなどを理解するとともに、目的や場面に応じて、英語で簡単な情報や考えなどを理解し、実際のコミュニケーションにおいて4技能を活用した技能を身に付けている 【思考力・判断力・表現力等の育成】目的や場面、状況などに応じて、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用してふるさと旭のよさや自分の興味があることなどについて表現したり伝え合ったりしている 【学びに向かう力・人間性の涵養】ふるさと旭に愛着を持つと共に、国内外の多様な文化や価値観に偏見なくコミュニケーションをしたり、表現したりしようとする

園校種	発達段階		年間時数	目標	特色・重点	備考
保育園	3・4・5歳	英語遊び保育	3・4歳 各20回 5歳 40回 ※1回 約30分	⑩【知識・技能の基礎】英語の音や言葉、歌や身体を使った英語表現に慣れ親しむことができる ⑭【思考・判断・表現の基礎】身近な会話表現に興味を持ち、簡単な英語を使って先生や友達とやりとりをすることができる ⑧【主体的に学習に取り組む態度】英語遊びを通して、先生や友達との、英語を使ったやりとりを楽しむことができる	《導入期》英語に出会う ・単語やフレーズなど、英語力の習得を目指すのではなく、英語を使った歌や手遊び、ゲームや絵本の読み聞かせなど、「遊び」の一つとして、楽しく英語に慣れ親しむ ・日常生活の中で、英語を使って遊んだり、英語を発見したりすることで「間違っても大丈夫」「もっと使ってみよう」という気持ちが芽生えるようにする。 ・子供が英語の世界に入り込めるように、英語指導員やALTとの英語遊びでは、できるだけ英語を使う	
			1年 34時間 2年 35時間	⑩【知識・技能】英語に触れる環境を通して、言語について体験的に理解し、英語の音声やリズムに慣れ親しむことができる ⑭【思考・判断・表現】英語と使って聞いたり話したりする活動を通して、伝え合う力の素地を養うことができる ⑧【主体的に学習に取り組む態度】英語を通して、外国の行事や習慣などの文化について理解し、誰とも仲良くコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができる	《基礎充実期・前期》英語で遊ぶ、やってみる ・1・2年は、「チャンツや歌を通して英語のリズムに慣れ親しませたりする」「自分や身近な話題に関して友達とやり取りを行う」「外国の行事や習慣などに触れる」などの活動を取り入れる ・ふるさと旭の自然等について、関心のあることを表現する	
前期後半	3・4年	外国語活動	各学年 35時間 + 総合15時間	⑩【知識・技能】外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め日本語と外国語の音声の違いに気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができる ⑭【思考・判断・表現】身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養うことができる ⑧【主体的に学習に取り組む態度】外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができる	《基礎充実期・後期》英語に慣れる、親しむ ・3年は、歌や絵本、体を動かす活動を取り入れ、楽しみながら英語の音やリズムに慣れ親しむようにする。「相手の顔を見てあいさつや会話をする」「英語の音声やリズムに慣れ、先生や友達と英語を使って尋ね合う」「アルファベットを読んだり書いたりするとともに、アルファベットの音に親しむ」「外国と日本の言葉や習慣、文化などの違いに関心を持つ」などの活動を取り入れる ・4年は、コミュニケーション活動において、「相手意識」や「伝える中身」を重視する。「話の内容に興味をもち、相づちを打ったり反応したりしながら会話をする」「日常生活の場面の中でよく使われる表現を用いて、聞いたり話したりする」「アルファベットの文字の音をつないで身近な語を読んだり書き写したりする」「外国と日本の言葉や習慣、文化などの相違に気付く」などの活動を取り入れる ・日本や旭の文化と、外国の文化の違い等で、興味・関心のあることを表現する	○英語集会 ・2月 ○読み聞かせ ステージ間で 取り組む ○英語教室 3～7年生
			5・6学年 70時間 + 総合15時間 7年生 140時間 + 30時間 (English Time) + 総合3時間	⑩【知識・技能】外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いを理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基本的な技能を身に付けることができる ⑭【思考・判断・表現】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる ⑧【主体的に学習に取り組む態度】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができる	《活用期》英語を使う・英語で伝える ・5年は、「自分のことや身近なことを簡単な英語を使って伝え合う」「文字を見ながら発音したり、音声で慣れ親しんだ表現を書き写したりする」「外国と日本の言葉や習慣、文化などの相違を理解する」などの活動を取り入れる ・6年は、「英語の音声や文字、ジェスチャーなどを使ってコミュニケーションを図る」「自分のことや身近なことを簡単な英語を使って会話を続ける」「簡単な英文や自己紹介文などを読んだり、書き写したりしながら自分の考えを英語で書く」「外国と日本の言葉や習慣、文化などの違いから、様々な考え方やものの捉え方があることを理解する」などの学習活動を取り入れる ・1年～4年の間に音声を中心にして扱い、慣れ親しんだ簡単な語句や、基本的な表現などの学習内容を場面や活動などを替えながら繰り返し指導し定着を図る ・日本や旭の文化と外国語の背景にある文化の違いから、旭のよさや課題を理解し、旭の将来について考え表現する ・7年生は、小学校課程の学びが中学校課程へとスムーズにつながるよう、7年を活用期後半とし、教材やカリキュラムの接続だけでなく、単元構成や指導方法等授業づくりにおいても小学校課程との密接な連携を図る	○英語教室 R4:ヨール小
中期	5・6・7年	外国語科	各学年 140時間 + 30時間 (English Time) + 総合3時間	⑩【知識・技能】外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができる ⑭【思考・判断・表現】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養うことができる ⑧【主体的に学習に取り組む態度】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができる	《活用期》英語を使う・英語で伝える～ 《発展期》異文化理解を深める・英語で伝え合う ・8・9年は、英語で伝え合う力を育成するために、「設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する」「目的に応じて情報や意見等を表現するまでの方向性を決定し、自分の気持ちや考えをまとめる」「目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う」「言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う」といった学習過程を設定する ・8・9年は、授業を実際のコミュニケーションの場とするため、生徒の理解度に応じた英語を用いて授業を行うことを基本とする ・日本や旭の文化と外国語の背景にある文化の違いから、旭を活性化させ、貢献するために英語を活用し、表現する	○検定 ・英検Jr. 10月実施 5・6年 が受験 ・英語検定 5～9年（希望者）が受験 ○ALT活用 ・フリートーク ・イングリッシュ ボード
			各学年 140時間 + 30時間 (English Time) + 総合3時間	⑩【知識・技能】外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができる ⑭【思考・判断・表現】コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養うことができる ⑧【主体的に学習に取り組む態度】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができる	《活用期》英語を使う・英語で伝える～ 《発展期》異文化理解を深める・英語で伝え合う ・8・9年は、英語で伝え合う力を育成するために、「設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する」「目的に応じて情報や意見等を表現するまでの方向性を決定し、自分の気持ちや考えをまとめる」「目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う」「言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う」といった学習過程を設定する ・8・9年は、授業を実際のコミュニケーションの場とするため、生徒の理解度に応じた英語を用いて授業を行うことを基本とする ・日本や旭の文化と外国語の背景にある文化の違いから、旭を活性化させ、貢献するために英語を活用し、表現する	○English Time(朝学習) 月・火・プリント・タブレット学習 水・リスニング ※7・8・9年
後期	8・9年					